

---

 <協同のひろば>
 

---

## 地域からの協同がひらく人類の未来

—92協同集会の準備の中で思うこと—

菅野正純(協同総合研究所専務理事)

### 京都の諸団体を訪れて

京都生協商品企画室の古家野さんに案内していただき、4月13日、京都高齢者事業団の鍛谷さんとともに京都の各団体を訪問し、6月の協同集会への参加・報告をお願いしました。その中でそれぞれの活動の一端をうかがい、たいへん勇気づけられました。大企業による生産・流通支配や地域の乱開発に対して中小商工業者が「協同」を軸に、高い質の政策をもって、たくましく生きぬいていること、文化の面でもさまざまなジャンルで活発に自主的協同組織が形成され、良質の文化を供給し、事業としても発展の展望を持っていることです。しかもそれぞれの実践に「人間が住めるまちづくり・文化が生きるまちづくり」という思想がしっかりつらぬかれていることです。

40年の歴史を誇る、全京都企業組合連合会は、1800の事業所を組織し、資金の協同化や部分協同化、統一経理システム等で1800の事業所を結び、さらにグループ化・近代化を進めて、新しい製品の開発にも挑戦しているとのことです。職人的な仕事の現代的再生という点で、中部イタリアとも一脈通ずるものがあるように感じました。

全京都建設協同組合も、30年以上の歴史を持ち、資材仕入れ、技術開発・情報、共同受注・施工、リフォームセンターなどで、400の組合員企業を多面的に結んでいます。その「中期ビジョン」はミニ開発プランなどまちづくりを積極的に提案しながら、事業を発展させていくというような、たいへん充実したもので、障害者・高齢者が暮らしやすい住宅づくりの研究会も毎月開かれています。

西新道錦会商店街振興会では、公共の資金も引き出しながら、カードシステムを導入。プライベート

ド、ポイントサービス、掛売、顧客管理、クレジット、家計簿サービスの6つの機能を持ち、帳簿整理にも抜群の効果を発揮しているとのこと。商店街を歩いて感じたのは、新鮮な魚や野菜を売る店が何軒も連なっており、同業種の店がそれぞれ個性を発揮して活気をつくりだしていることです。ここでも、地域の発展なくして商店街の繁栄もないという観点から、住みやすいまちづくり運動に積極的に取り組まれています。

学校や生協への音楽の「出前」、地域の文化づくりで有名な京都音楽センターにも初めておじゃますることができました。「借金コンクリートづけです」と代表取締役の時田さんは笑いながら言いますが、6人の若い男女事務局の人たちは元気いっぱい感じでした。

音楽センターから紹介されて京都映画センターにも足を運びました。映画上映権の共同購入、共同宣伝、さらには映画の共同制作までも事業内容とする全国的な事業協同組合づくりが進められているということで、映画を愛する人が、こうした仕事で「食べる」ようになっていくことに感動しました。西陣文化センターにもおじゃましましたが、音楽、演劇、映画と、文化が協同の事業として発展していくことに、大量浪費・物欲中心の社会を超える希望があるように思います。

翌日は、生協京都府連の井上専務が中心になって、毎朝、京都駅前で行われている国際障害者年の「マラソン・スピーチ」に、ピラまきの一員として参加。車の上から演説するのかと想像していたら、小さな台を道に置いての「辻説法」で、大多数の人がピラを受け取っていき、このスピーチの定着ぶりを知りました。

朝からピラまきを手伝ったせいかな、この日はたいへん運よく、京都生協の横関理事長にお会いす



ることができ、理事長は鍛谷さんと私に、3時間近くも熱っぽく生協のお話を聞かせて下さいました。とりわけ、生協経営もきびしさを覚悟しなければならない中で、財務、人事・教育、総務、商品のすべてに対する組合員と職員の活発な参加の実現がカギであるというお話や、住民の過半数の組織を目前にして、失業者や障害者等の弱者に手を差し伸べていくことが生協の課題でなければならないというお話が心に残りました。

障害者共同作業所など、回り切れないところはありましたが、京都はさまざまな協同が息づいているところで、協同集会の内容も充実したものになるのではないかという手ごたえを持って東京に帰ることができました。

### 「人類の危機と協同でひらく未来」

協同集会の準備は、1日目のシンポジウムの内容とパネラー、2日目の分科会の柱が決まり、これから報告者と内容づくりの詰め、大量宣伝と参加の確認を進める段階です。

討議の中で、いろいろ議論がある中で、今年のメインテーマを「人類の危機と協同でひらく未来」とすることに決めました。

京都で学ばせていただいたことは、このテーマとかけ離れていないどころか、むしろこのテーマに確信を与えてくれるものでした。それは、「人類の危機」が、人々の生活の中に具体的に迫っているものであり、したがってその克服と、人類の未来への展望は、職場の変革を含めた「人間らしく生きられる地域づくり」への協同のとりくみと、それらの間の全国的・世界的な共感と連帯を土台に、はじめてきりひらかれると考えるからです。

私たちがこだわる人類的な危機の問題について、その克服と未来への希望という点を、いま仮に次のように要約してみたいと思います。

\*金もうけ第一の大量浪費をやめさせ、人間と他のすべての生物が生き続けられる地域環境、地域環境を取り戻すこと

\*核兵器廃絶、全般的軍縮、戦争と暴力のない世界の実現

\*世界中のすべての人々の貧困と飢えからの解放、基本的衣食住の確保

\*食糧・生活必需品、社会サービス、文化の、生産・流通・消費の、金もうけ第一主義からの解放、連帯と相互尊重にもとづくネットワーク化

\*農林水産業、地場中小商工業、「いのち」と文化を育む第三次産業、ごみ・資源リサイクルの労働が尊重される人間中心の経済

\*心身の健康が保たれる社会環境、病気・障害・高齢化のハンディを持って、人間らしく生きられる地域

\*子供から労働期間、引退後まで、誰もがかけがえのない自分の人生を「発見」でき、自分と人をもとに大切にする世の中

\*金もうけ第一主義と物欲に翻弄されず、高い質の文化を楽しみ、人と人とが豊かにつながる社会

——もちろん「協同」の取り組みは、一人一人の人が自らの欲求と希望にもとづいて、いろいろな入口から、いろいろな形で進めることが可能です。ただ、それぞれの取り組みは、やはり人類的な危機という大きな状況の中で生まれており、それぞれの立場から生存と生活の危機を乗り越える指向を持っていることも確かではないでしょうか。

さまざまな協同の事業と運動がこの集会に参加され、それぞれの実践のすばらしい価値を「学び合い」「伝え合い」、新しい可能性、発展方向を明らかにするとともに、人類的な危機を克服し未来をひらくために、広いネットワークを「結び合う」一つのきっかけに、この集会がなれたらと思います。会員のみならず皆さんの積極的な参加を心からお願ひします。